京都大学医学図書館

北 川 昌 子*

京都大学医学部閲覧掛

京都大学医学図書館は、学内 50 余の図書館（室）のうちの一つです。このため、京都大学医学図書館としての独自性・機動性をもちながら、京都大学全体の図書館施策や図書館システム等と連動しています。

建物外観は、本誌 16 巻 4 号（1969）の表紙写真として紹介されて以来、ほとんど変わっていません。施設の色は、最新資料の充実や利用者へのサービス内容で補うよう努めています。

まず、京都大学医学図書館の最近数年の動きからご紹介します。

医学図書館（右）および書庫（左、1901 年建築）

1. 京都大学医学図書館の最近

2001 年

- 6 月 医学図書館利用証交付申請受付開始
- 7 月 医学図書館 HP からの「他大学への文献複写申込み」受付開始
- 9 月 入退館機の稼働
貸出返却システムの運用開始
医学図書館 HP からの「学生希望図書申込み」受付開始

- 10 月 グループ学習室増設
シラバスコーナー・国試対策コーナー設置

2002 年

- 5-6 月 オンラインジャーナル講習会
Web of Science 説明会
- 7 月 医学図書館メールニュース配信開始
学外依頼の文献複写物の学内送付開始
BioMedCentral への機関加入
- 8-10 月 OPAC 講習会, PubMed 講習会
- 9 月 軽読書室に情報コンセント設置

2003 年

- 2 月 Cochrane Library の導入
SciFinder 説明会, UpToDate 説明会
- 3 月 閲覧室椅子, 軽読書室キャレルデスクの一新
- 5 月 OPAC 講習会, SciFinder 説明会
「医学図書館の紹介」(連携授業)
- 7 月 Online Journal 講習会, 医中誌 Web 講習会
- 8 月 館内全面禁煙
- 10 月 (予定)
夜間開館 22 時まで試行延長
「医学図書館の利用」(連携授業)
Cochrane Library 等各種講習会

2. 京都大学医学図書館の特徴

①施設の老朽化と施設整備計画

1965 年建築の医学図書館は、老朽化が著しく耐震構造を改修する必要性があり、狭隘化した蔵書収蔵および図書館機能の拡充のためにも、増改築の施設整備計画を立てています。

②図書館運営と利用者

医学図書館は、医学研究科・医学部および附属病院のほか関係 6 部局（再生医科学研究所, ウィルス研究所, 放射性同位元素総合センター, 放射線生物研究センター, 遺伝子実験施設, 医療技術短期大学部（2003 年 10 月より医学部保健学科））の経費で運営され、その用途は医

*Masako KITAGAWA : 〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町.
Tel.075-753-4323 Fax.075-753-4318
ref@office.med.kyoto-u.ac.jp

(2003 年 8 月 27 日 受理)

京都大学医学図書館ホームページ
(<http://www.lib.med.kyoto-u.ac.jp>)

学図書館運営委員会で決定されています。これらの部局所属者が入館・貸出利用全体の約80%を占めています。

③蔵書構成

蔵書数約20万冊。医学とその関係領域の雑誌が主体で、図書と雑誌の比率は3対7です。

④電子ジャーナルと学術文献データベース

京都大学全体で利用できる電子ジャーナルは約7,000タイトル(2003.07現在)。そのうち、医学系電子ジャーナルは約1,700タイトルです。

Web of Science等、全学利用のデータベースのほかに、医学図書館購入分として、医中誌Web、MEDLINE、Cochrane Libraryがあります。

⑤来館利用型と非来館利用型サービス

電子ジャーナルの導入により、年々、入館者数および貸出冊数は減少しています。医学図書館は従来、研究者向けサービスが主でしたが、電子ジャーナルの拡充は、利用者要求の二極化をさらに顕著にしました。国際的かつ先端的な、最新情報を迅速に入手したいという研究者

の強い要求は、代理店や出版社にも揺さぶりをかけるほどで、非来館型利用に対応した情報提供方法が求められています。ホームページ、メールニュース等、多様な広報手段に知恵を絞っています。

また、医学部学生を中心とする来館利用者への従来型サービスも、学生用資料の充実を図る等、魅力ある図書館への改善努力をしています。

⑥文献複写

電子ジャーナルの充実に伴い、文献複写件数は依頼・受付ともに減少傾向ですが、NACIS-CAT/ILL統計では、依頼・受付件数は全国15位前後(平成14年度)と上位です。依頼件数中、私費件数は公費の1.5倍です。

⑦利用支援・案内広報活動

利用者と図書館間の相互理解や、運営費等の予算確保のためにも、図書館機能を十分活用してもらうための利用指導や広報等に積極的に取り組んでいます。

また、近隣図書館、臨床教育協力病院、および地域の医療関係者から一般利用者まで、地域支援も視野に入れています。

3. 今後の課題

①独立行政法人化への対応

②文献や図書の学内デリバリー等の研究支援

③カリキュラムに即した資料充実、利用者教育等の更なる教育支援

④情報の共有と公開

⑤耐震改修やバリアフリー化等を含む施設増改築

等、間近に迫ったものから将来計画まで課題は山積していますが、図書館をとりまく社会環境や利用者要求を敏感にとらえ、軌道修正しながら解決していくつもりです。